

コラム

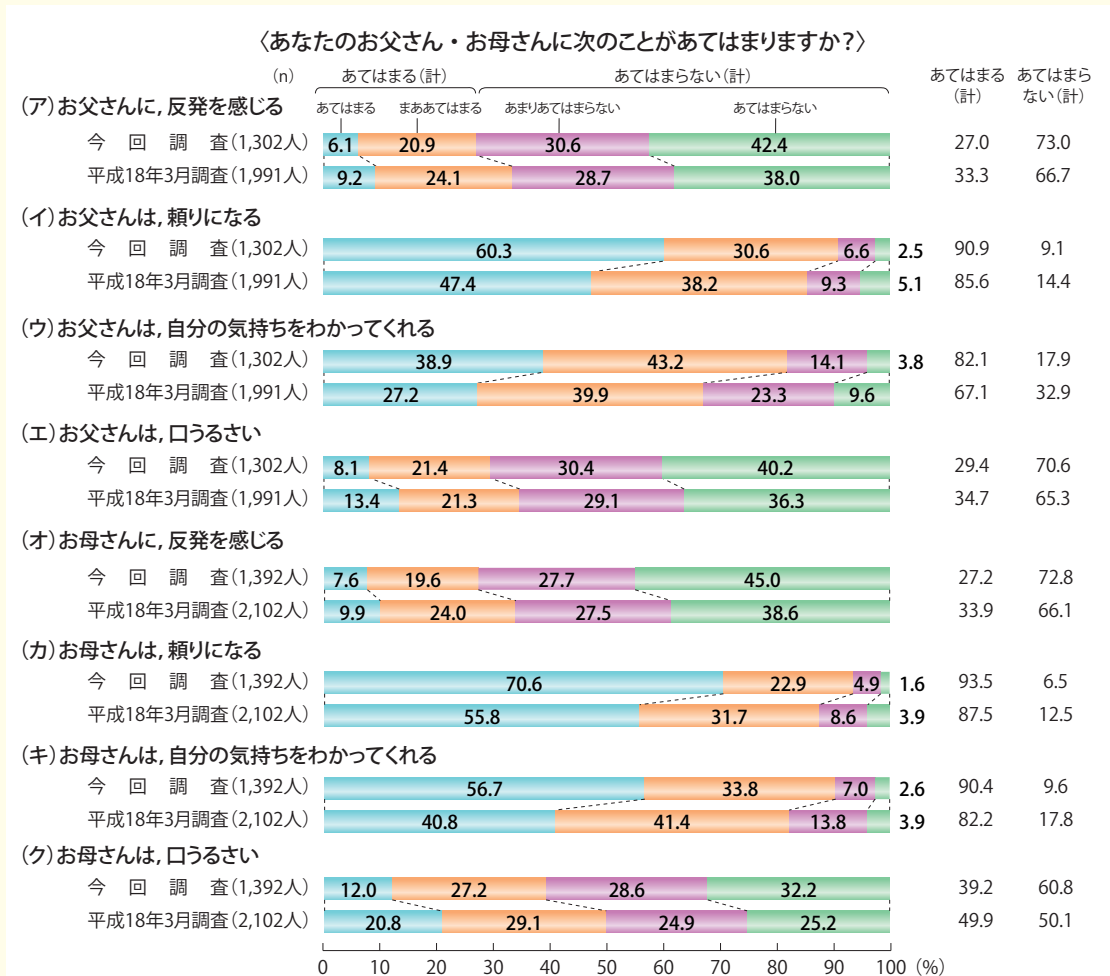
【コラム 1】 「両親を信頼し、家庭が楽しい」と思う小学生・中学生は増加 ～小学生・中学生の意識に関する調査結果～

内閣府では、平成26年7月に、9歳から14歳までの小学校高学年と中学生の家庭・学校・友人・価値観等の意識と、その保護者の子育てなどの意識に関する調査結果を公表したが、平成18年に実施した同種調査と比較した概要の一部を紹介する。

対象	満9歳～満14歳（平成26年2月）とその保護者
期間	平成26年2月
方法	小中学生：個別面接，保護者：訪問留置・回収
標本抽出	層化二段無作為抽出
回収	小中学生：標本2,000人。有効回収1,404人（70.2%） 保護者：標本2,672人。有効回収：2,487人（93.1%）

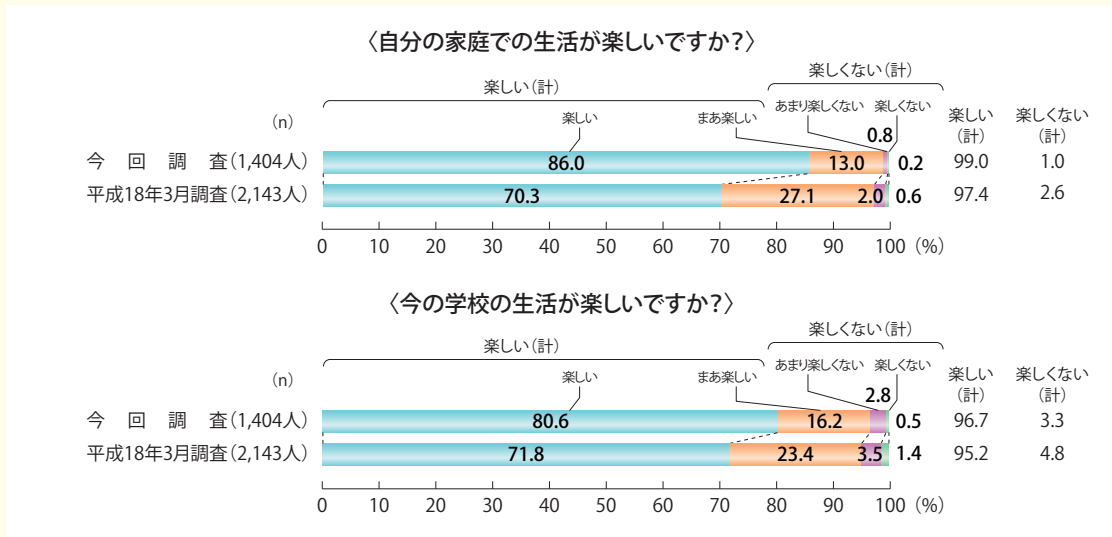
1 小・中学生を対象とした調査結果

(1) 両親を「頼りになる」「自分の気持ちを知ってくれる」と考える者は上昇

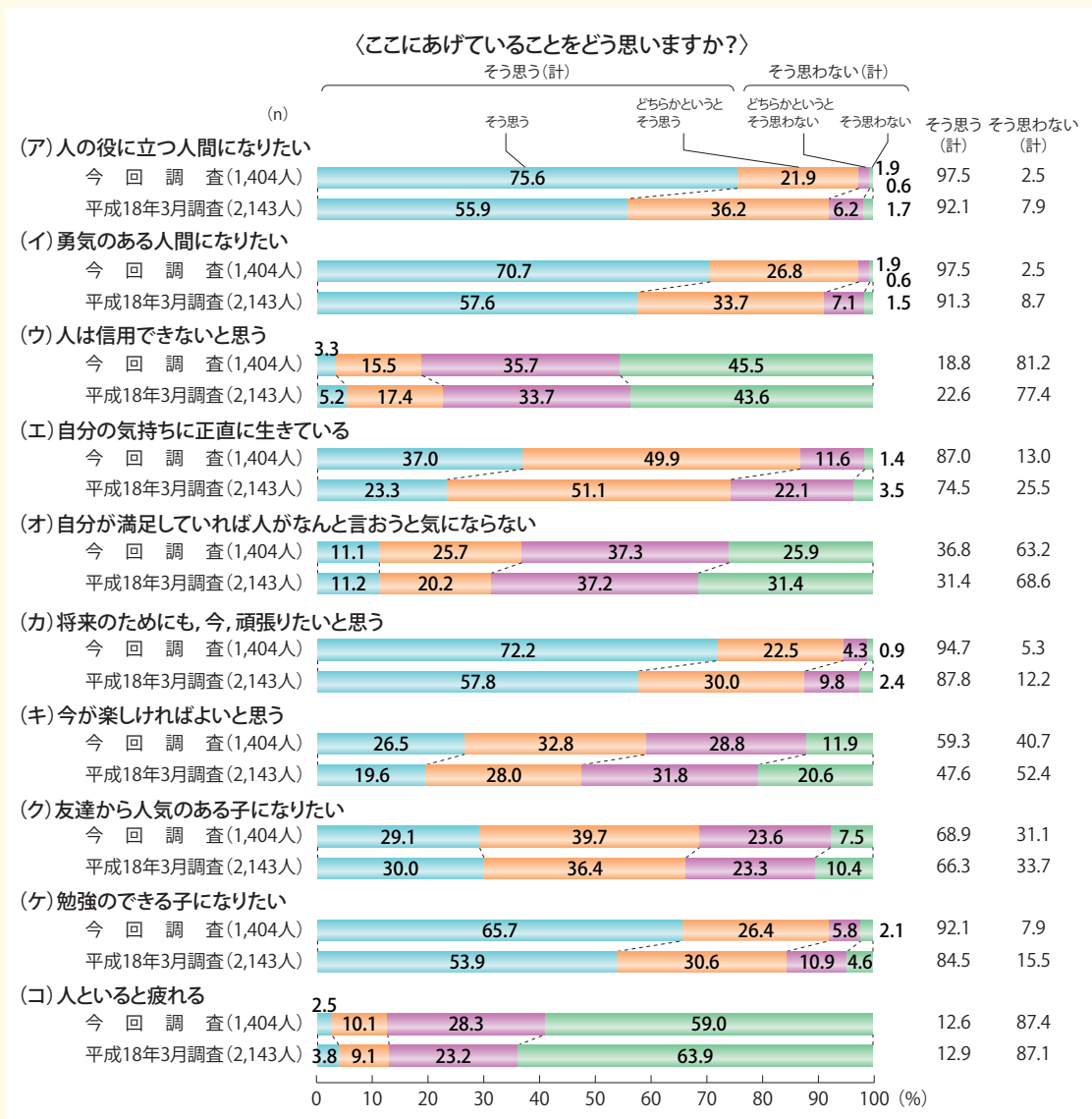


(注) 1. (ア) から (エ) の質問で、「お父さんはいない」と答えた者は、今回調査では102人、平成18年3月調査では152人である。
2. (オ) から (ク) の質問で、「お母さんはいない」と答えた者は、今回調査では12人、平成18年3月調査では41人である。

(2) ほとんどの小・中学生が家庭や学校が楽しいと回答

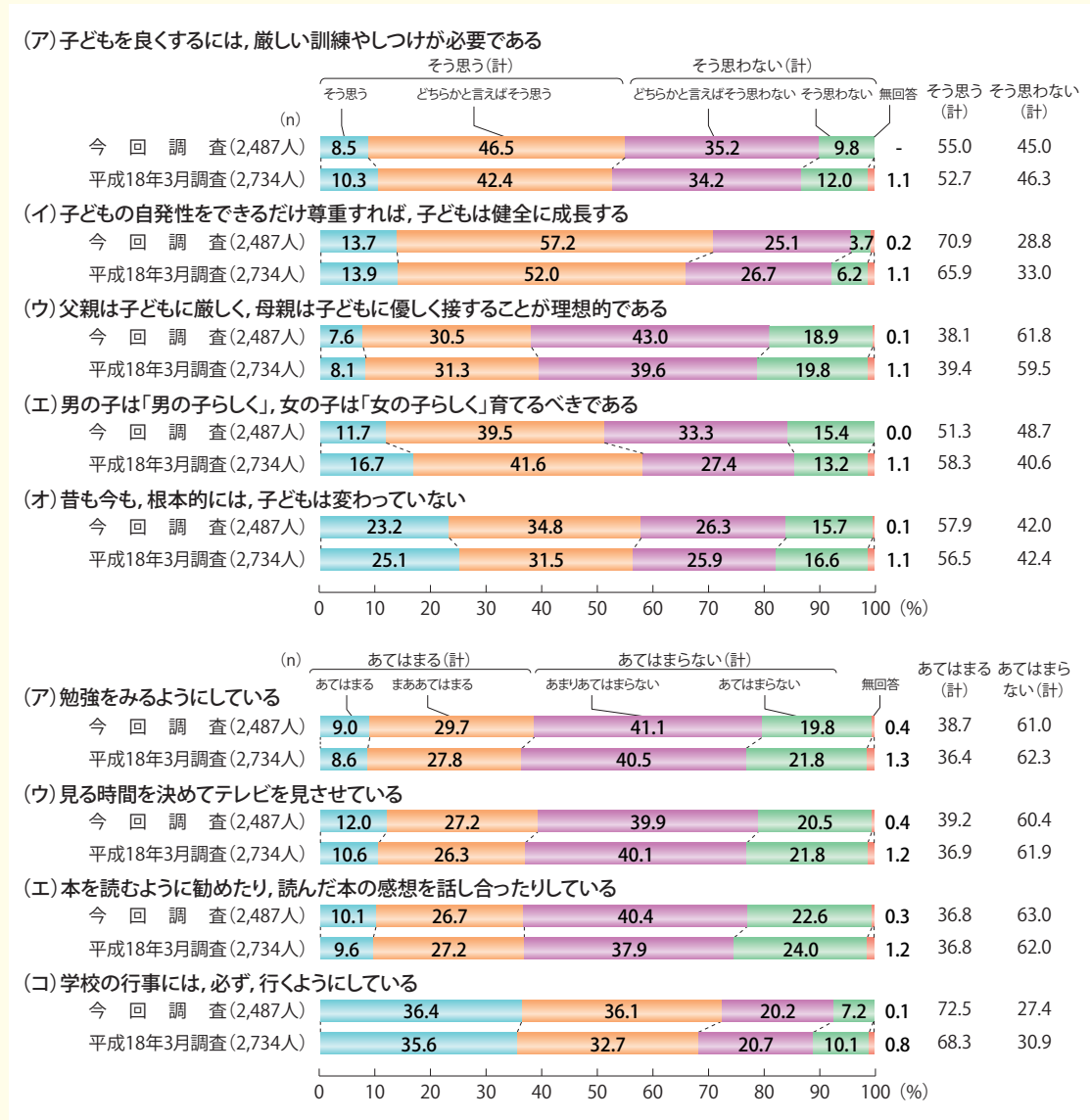


(3) 「人の役に立ちたい」「自分の気持ちに正直に生きている」「将来のためにも今頑張りたい」「勉強のできる子になりたい」とする小・中学生の割合が上昇



2 保護者を対象とした調査結果

「勉強をみる」「テレビを見る時間を決める」「本を読むよう勧める」「学校行事に必ず行く」よう心がけているほか、「子供の自発性をできるだけ尊重すれば子供は健全に成長する」と回答する保護者の割合が上昇



3 考察

子供の自主性を尊重しつつ、子供に関心を持って臨む保護者が増えていることうかがえる一方、家庭や学校に安心や満足を感じ、将来に積極的な志向を持つ子供が増えていることが指摘できる。